

校長室だより (No.13)

令和6年2月2日
丹波市立黒井小学校長
谷口 千尋

入学されるみなさんへ

令和6年度の黒井小学校は、4月9日の入学式に29名の新生を迎え、178名でスタートする予定としています。昨日も認定こども園かすが花の子園の生活発表会に向けての練習を参観させていただきました。(5歳児のみ) 明るく、元気よく、友だちと協力して、自分の役割を演じている子どもたちの様子を見せていただき、一緒に生活できるのが、今からとても楽しみです。この6日には、入学を控えられている新生の保護者の皆さまに来校いただき、入学にかかるお話をさせていただく予定です。この説明会では、3つのことをお願いしたいと考えています。

～命の大切さ～

この1月1日に能登半島を中心とした大きな地震が発災しました。多くの命が失われ、被災された方々の避難生活が続いています。29年前には、ここ兵庫県でも多くの方が阪神淡路大震災で被災されました。地震災害に限らず、日本において災害は、いつ、どこで起こるか分からないものです。この災害が起こる度に感じますのは、わたしたち国民全体で守ろうとしているものは、「命」であると思います。

その他にも児童虐待やいじめ問題、新興感染症、薬物の乱用など様々な「命」にかかる問題もあります。自分の命、家族の命、友だちの命の大切さを入学という節目に、ご家庭でお話いただければと思います。

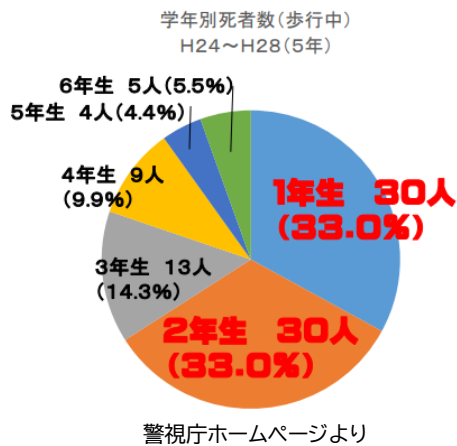
～学校は楽しいところ～

小学校への入学を控えた子どもたちの心境は複雑です。小学校への入学を控え入学できる「喜び」や周囲からの「期待」と、これまでのこども園などの生活環境が大きく変わることに對する「不安」が入り混じった状態です。よく言う期待と不安です。「もうすぐ1年生だから、いつまでもそんなことを…」「こんなことでは、小学校にいけないよ…」などという言葉で、子どもたちを励まそうとしてしまいます。

しかし、これらの言葉は子どもの小学校や小学校の生活に対するマイナスイメージをつくってしまいがちであるといわれています。「小学校では、友だちがいっぱいできるよ。」とか「広い運動場で遊べるよ。」「タブレットパソコンが使えるよ。」というような明るく、楽しく、希望が持てるような「プラスの言葉がけ」が大切だと考えます。他にも、「小学校は、校舎が広くていろいろなことができるよ。」「音楽や図工などいろいろな楽しいお勉強があって楽しみだね。」などの楽しい話題で早く小学校へ行きたい、いろいろな勉強がしたいという気持ち(期待)を持たせていただきたいと思います。小学校教育でも就学前教育で身につけた、主体性の芽を大切に伸ばしていきたいと考えています。



～安全で安心して通える学校に～



子どもたちが安心して通える学校にすることは、学校の基本です。特に注意していただきたいのが登下校です。小学校では、集団登校、集団下校が基本となります。ご存知のように黒井地区は、国道や高速道路、鉄道が通り交通量の多い地域です。また、学校付近の道路は狭窄です。

警視庁のまとめを見ますと、交通事故での小学生の学年別死者数では、グラフのようになっています。様々なことが原因として考えられますが、低学年の児童は、視野が大人と比べてまだ狭く、身長も低いため遠くまで見渡せません。あわせて、興味や関心のあるものに衝動的に動いてしまうこと

が多いことも大きな原因です。ドライバーからすれば、小さくて見えにくいいうえに、1年生は、他の学年と違った時間帯に下校していたり、行動が読めなかったりすることもあるようです。学校でも十分に指導をしていますが、家庭においても交通量の多い道路や踏切等のあるこの校区の特徴を考慮したうえで指導いただきたいと思います。